

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成29年11月24日 (2017.11.24)

【公表番号】特表2016-534042(P2016-534042A)

【公表日】平成28年11月4日 (2016.11.4)

【年通号数】公開・登録公報2016-062

【出願番号】特願2016-521645(P2016-521645)

【国際特許分類】

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

C 1 2 N 5/09 (2010.01)

C 1 2 N 5/071 (2010.01)

C 1 2 N 7/00 (2006.01)

C 1 2 N 1/20 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 39/00 H

A 6 1 P 35/00

C 1 2 N 5/09

C 1 2 N 5/071

C 1 2 N 7/00

C 1 2 N 1/20 A

【手続補正書】

【提出日】平成29年10月6日 (2017.10.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

哺乳動物に特異的免疫反応を誘発するよう形成された組成物であって、

前記組成物は、膜結合オルガネラを含まない、単離ユビキチニル化タンパク質の溶液を含み、

前記単離ユビキチニル化タンパク質は、1つ以上の特異性抗原を含み、更に、閾値量のポリユビキチニル化短寿命タンパク質およびポリユビキチニル化欠陥リボソーム産物を含むことを特徴とする、組成物。

【請求項 2】

前記単離ユビキチニル化タンパク質は、培養成長させた腫瘍由来細胞からアフィニティ精製されたものであることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

前記腫瘍由来細胞は、培養成長する間、プロテアソームによるユビキチニル化タンパク質の分解が抑制されたものであることを特徴とする、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記腫瘍由来細胞が、哺乳動物に由来する培養細胞であることを特徴とする、請求項 2 又は 3 に記載の組成物。

【請求項 5】

前記腫瘍由来細胞が、前記腫瘍由来細胞に対して内在性でない 1つ以上の特異性抗原を発現するよう改変されていることを特徴とする、請求項 4 に記載の組成物。

【請求項 6】

前記腫瘍由来細胞に対して内在性でない前記 1 つ以上の特異性抗原が、ウイルス性抗原を含むことを特徴とする、請求項 5 に記載の組成物。

【請求項 7】

前記腫瘍由来細胞に対して内在性でない前記 1 つ以上の特異性抗原が、細菌性抗原を含むことを特徴とする、請求項 5 に記載の組成物。

【請求項 8】

免疫原性試薬の製造法であって、

培養成長させている腫瘍由来細胞中のユビキチニル化タンパク質のプロテアソーム分解を抑制する工程と、

培養成長させた前記腫瘍由来細胞から、膜結合オルガネラの不在下で、ユビキチニル化タンパク質を単離する工程と、

を含み、

前記単離ユビキチニル化タンパク質は、1 つ以上の特異性抗原を含み、更に、閾値量のポリユビキチニル化短寿命タンパク質およびポリユビキチニル化欠陥リボソーム産物を含むことを特徴とする、製造法。

【請求項 9】

更に、

前記腫瘍由来細胞を溶解する工程と、

得られた細胞溶解物から、組み換えポリユビキチン結合ペプチドを用いてユビキチニル化タンパク質をアフィニティ精製する工程と、

前記組み換えポリユビキチン結合ペプチドから前記ユビキチニル化タンパク質を溶離する工程と、

を含むことを特徴とする、請求項 8 に記載の製造法。

【請求項 10】

前記腫瘍由来細胞が、前記腫瘍由来細胞によって内因性発現しない 1 つ以上の特異性抗原を発現するよう改変されていることを特徴とする、請求項 8 又は 9 に記載の製造法。

【請求項 11】

前記 1 つ以上の前記特異性抗原が、ウイルス性抗原を含むことを特徴とする、請求項 10 に記載の製造法。

【請求項 12】

前記 1 つ以上の前記特異性抗原が、細菌性抗原を含むことを特徴とする、請求項 11 に記載の製造法。

【請求項 13】

前記腫瘍由来細胞が、哺乳動物の腫瘍に由来する初代培養細胞であることを特徴とする、請求項 9 に記載の製造法。